

うっとうしい梅雨の時期です。

今年は空梅雨？と言われながら、この所かなりの量の雨が降り続いています。

皆様の所では被害などありませんか？

梅雨が明ければ本格的な夏！…でも暑いのはどうもね～

夏休みの計画のある方はどんな過ごし方をされるのでしょうか。

今回はうさおさんから投句いただきました。

朝涼し目覚めるまでの爽やかさ

感じは良くわかるのですが、朝涼し（夏）爽やか（秋）の季重なりです。

*朝涼し目覚めるまでの小ひと時

まだ早いつもりのうちわ手が伸びて

うちわ、いかにも夏の情緒があります。まだ早いつもり…その通りなのですが俳句では声に出して読んだ時のなめらかさも必要になります。

*まだまだと言へど団扇に手を伸ばす

心急ぐ帰宅の道の薄暑さ

このままで良いと思いますが、薄暑（はくしょ）という季語があるので

*心急ぐ帰宅の道の薄暑かな

雨ぼつり生暖かき南風

南風を生暖かいと感じて詠まれたのですね。

生暖かき…と説明しなくても南風にはそんな意味も含まれているので

*雨ぼつりぼつりと連れて南風（みなみ）かな

よろけては苗田の蛙を毀しおり

これも良くわかる句です。ただ苗田は春の季語なので、初夏、夏ならば青田を使われてはどうでしょうか。

*よろけては青田の蛙を毀しをり

夜の田は蛙の声の煩わし

足音をたてて蛙を黙らせる

蛙だけだと春の季語なのです（ややこしい～）夏にするならば、夏蛙とか暮蛙とか…

*夜の田に忙しく鳴きし夏蛙

*足音に押し黙りをり暮蛙

舗装路に暈着た月は白く冴え

良いですね、ただ季語がはっきりしないので（月は秋の季語だし…）夏の月にしませんか

*舗装路に暈着たやうな夏の月

夜明け前霧たちこめる杉の道

五十路には緑の杉も足に来て

霧が秋の季語ではありますが、そまの道…ってどんな道なのでしょうか？

木々が鬱蒼としている道の事かな～？何となく霧があっている様な気がしますね～

*朝霧や踏み込むほどに杉の道

*五十路なる杉人の足露に濡れ（露も秋の季語ですが…）

うさおさん、ありがとうございました。

俳句どうですか？

今回はうさおさんの投句のみでしたので、句会についてお話ししようと思います。

皆さんは句会ってどんな感じで行われるのかご存知でしょうか？

もちろん、句会にもいろいろな形がありますが、私の参加している句会は50人程の人数です。

あらかじめ三句（兼題一句雑詠二句）投句し、先生によって清記された句稿が送られてきます（当然ですが150句ぐらいあります）。句には番号がうってあり、もちろん作者の名前は記載されていません。句会当日までに私達はこの句！と思う句を選句するのです。

句会当日選句を選句用紙に認めて提出します。句稿を前に黒と赤のボールペンを用意して机の前に座り、句会が始まります。

選句を披講するのは同人の披講係で、まず私の様な同人ではない普通会员の選句から読み上げられます。

例えば「風花選、〇番〜〜」という様に私の選んだ並選五句と特選一句が読み上げられその番号の句の作者は名前を名乗ります。

そして句稿には黒いボールペンで選ばれた句の上に一票二票と正の字が書き込まれます。

普通会员の選句披講が終わり、次に同人会員の選句（赤のボールペンに変わります）

そして主宰とそれに値する先生達の選と続いて、要するに点数を競う…（最高得点者にはレプリカの盾が贈られるのですが）ゲームのような所もあって結構面白いのです。主宰であろうが入りたての新参であろうが同じ土俵での勝負ができるという訳です。自分の句を誰かが選んでくれて、「風花です」と名乗りを上げる時は、やっぱり嬉しい気持ちは隠せません。だいたいは力の差を見せ付けられて、がっかりして帰りますが、時々主宰の特選を頂く事もあったりして、これも結構楽しいのです。互選が終わったあとは、先輩達の意見をお聞きしたり、添削があったり…

こんな感じで句会は終了します。これは月例句会で吟行のあと行われる吟行句会は当日作った句をその場で清記係が句稿にまとめ、その場で選句する形になるので、もう少し高度になります（私にとっては）。

もちろん、句会には5、6人の仲間で作っているものや10〜20名程度の公民館句会のような物など、いろいろな形があるので、少しずつ違うかも知れませんが、概ねこんな感じです。

30代から80代までが一堂に会しての月に一度の勝負（？）なかなか面白そうでしょ？

結界へカーブゆるやか濃紫陽花

恵てふ雨連れ来しかはたたがみ

棟梁も新入りもなき昼寝かな ゆうこ

次回は晩夏から秋の句で兼題は特に設けません
皆様の投句お待ちしております

